



内閣府 「地域活性化事例研究事業」

夢へのパスポート



団塊世代が“元気”を発信する街づくりをめざして

矢沢永吉ではありませんが、「アー・ユー・ハッピー？」と問いかけられたら、何と答えますか？

エセナおおたでは、男性と女性が協力して共にいきいきと暮らせる“男女共同参画社会”をめざした事業を開催しています。そのひとつに「男の生き方講座」があります。

今年、NPO法人男女共同参画おおたが、内閣府の「地域活性化事例研究事業(女性が輝く地域づくり)」を受託し、「男性の地域デビュー」に取り組みました。この事業は、女性たちがまちおこし・地域づくりに取り組む姿をドキュメンタリー・ビデオに収め、女性のイニシアティブなロールモデルとして、全国に情報発信するものです。

エセナおおたを舞台にしたドキュメンタリーのタイトルは「夢へのパスポート」と決まりました。具体的には「コミュニティーでより良く生きるための地域リーダー養成講座」として、定年を迎えたか、これから迎える男性たちが地域活動に参加するのを支援し、地域活性化の原動力となってもらうことをめざしました。

これまでの「男の生き方講座」の参加者へ声をかけ、11月から12月にかけて行なう男性向け講座の企画会を立ち上げました。企画の参考にするため、9月10日には「笑ったり恋したり、寛大な気持ちで人とつながって、おもしろおかしく人生を過ごそう」と、50代以上にエールを送る木村政雄さん(元吉本興業)の講演会(2・3面にまとめました)に取り組みました。企画員と共に本講座のテーマを「男の生き方塾『さよなら会社人間～黄金の60代を創ろう～』」に決め、広く一般に呼びかけ参加者を募りました。

戦後の1947年から1949年に生まれたベビーブーム世代が2007年から定年を迎え、その多くは男性です。家庭

や地域のことは妻に任せ、一心不乱に高度経済成長を支え、日本経済の発展に尽くしてきました。

その大量の退職者が、地域や家庭で摩擦を起こすことのないようにと、テレビや新聞などで、企業人間から地域生活者へ変わるための心得や、地域で活動している人たちの取組みを頻繁に紹介しています。しかし、男女平等の視点にたった新たなコミュニティーをつくることは即席にできることはありません。新しい経験を楽しみながら、自ら気づき自ら変わらない限り、企業論理を引きずったままの生きにくい社会参加となってしまいます。

“仕事の定年は人生の定年ではなく、新しい人生の始まり”とよく言われますが、会社を辞めると総てが自己責任となり、人生設計に不安を感じるがあります。そんな時、家族、特に妻の存在は重要となり、妻との日ごろからのコミュニケーションが最も大事になります。

今回の講座の中で、参加者からの声として、妻とのコミュニケーションが大事なことに気がついたという感想が多く寄せられました。「地域デビューは夫婦のコミュニケーションから」が意識されたのは、男女平等の視点から見て、最も大きな収穫でした。これまでに培ってきた「経験」を宝物として、家庭でも地域でも、自分も周りもみんながハッピーになる生き方ができるようになってほしいと思います。

(北田久枝)



不安を ワクワクに 変える知恵

2007年問題が騒がれている中、不安や問題を嘆くよりも、これからの人生を楽しむヒントを得ようと、「自分にウケる生き方」を提唱している木村政雄さんの講演会を行いました。とにかく元気がでる、楽しいお話でした。



4年程前に、33年お世話になった会社を退職し、組織を離れた自由を大いに楽しんでます。昭和44年に就職した吉本興業では、三つの仕事をさせていただきました。最初は横山やすし・西川きよしさんのマネージャー、10年目に東京事務所開設のため東京へ赴任し、東京マーケットを開拓した後、大阪へ帰ったのが20年目。大阪では現場で働き、現場の空気を楽しみました。10年毎に違うテーマに挑戦させていただいたお陰で、違うスキルを開発することができ、自分の賞味期限を延ばすことができたと思っています。

昨今の日本を覆っているムードは非常にグルーミーと言われ、暗く重苦しい気分が漂っています。上場企業の経営利益は飛躍的に改善されていますが、個人レベルではサラリーマンの所得はこの10年間で12%ダウンしています。貯蓄ゼロ世帯も増え、現在をさして「混迷の時代」とも、「常識人にとって非常にわかりにくい世の中」と言う人もいます。

◆◆◆◆◆◆◆◆

常識は過去から昨日までの一番支配的な考え方にしか過ぎません。ある意味では期間限定付き、賞味期限付の価値観にしか過ぎない。それを不変なものとして、激変するこれからの時代にあてはめようとしても、通用しません。新しい問題を解くためには、新しい方程式をたてなければ解けない。今までの考え方の前提や常識をいったん捨て、新しい考え方の枠組みを構築していかないと、激変していくこれからの時代に対応できなくなってしまう。

日本は明治・大正・昭和・戦後を通して、早急にヨーロッパやアメリカという先進国に追いつき追い越すために、価値や仕組み、資本や人口を、東京という中央の一箇所に集約させ、集団エネルギーや頑張りリズムで一所懸命に頑張ってきました。前のランナーの背中を見ながら、いつか追いつき追い越すという思いで、一致団結してきました。それが、自らが世界の先頭に立った途端にあるべき姿を見失ってしまい、未だに積極的な展望を描き得ないで佇んでいるのが、今の状況です。

私たちは幸せになるために頑張った、でも頑張った分だけ幸せになれていない。昔、日本人が高度成長の夢に酔いしれている時に、或る外国人が「君たちは高度成長を達成した。だが高度成長を達成した後、いったい何をするつもりなのか」と問いかけました。まさにその答えを用意しないままに、こま

で来てしまったと言えます。

人間は働いたお金を貯めた先にどう生活しようという目的があり、その目的を達成するために労働や貯蓄をします。ところが、手段であるべき労働や貯蓄自体を目的化してここまで来てしまいました。2年ほど前に、雑誌で「悲観」を楽しむ日本人というのがありました。しかし「悲観」からは何も生まれません。そろそろ前向きな考え方に変えていかなくてはならない。むしろ今こそ今までの意識、仕組みを変えるチャンスと考えるべきではないでしょうか。

では意識や仕組みをどのように変えるのか。意識という点では、今までひたすら「成長する」ことを軸に社会を動かしてきたのですが、成長率の高さは、必ずしも私たちに幸せを保証しないことが判ってきました。これからは、むしろ「楽しさ」というようなものを軸に社会を動かしていかねばいけません。

物の豊かさを追いかけるのではなく、本当の意味での自由を享受した方が人は幸せになれるのではないかと。GNP(国民総生産)やGDP(国内総生産)という指標ではなく、GHP(幸せの総量)やGNS(国民の満足度)という指標が幸福の尺度になっていかなければならないのが、これからの時代です。

◆◆◆◆◆◆◆◆

「富国強兵」ではなく、「富国楽民」をめざしていかなくてはなりません。「みんなで歯を食いしばって頑張りましょう」という気持ちから、「それぞれが、自分の人生を楽しみましょう」という気持ちに切り替えていかなければならない。時代は変わったのです。しかし古い人たちが旧来の手法で事に当たっているのが今です。日本はなまじ古いルールでうまくいってしまったために、かえって変わらない国になってしまっています。もう今までは違うことに気づくべきです。

物事はむしろ変わって行くのが当たり前という眼を持たなくなりません。「賞味期限」はなんにでもあります。人間にも「賞味期限」があります。単に年を重ねたからということではない。「オレは聞いてない」、「正式には聞いてない」、「それはオレのやることではない」、「前例がない」、「社風になじまない」、こんなことばかり言っていると、人間はあつという間に賞味期限切れになってしまいます。できるだけ「肯定」から入っていくことが大事です。「面白い」、「やってみよう」、「やるためにはこの条件をクリアすれば」と考えていかなければ、人間は

若くても賞味期限切れになってしまいます。



組織・システムにも賞味期限があります。価値観にも賞味期限があります。50年前、厚生白書は「人口が増えていくことが国の発展を阻害する」と言っていました。50年後の今、「人口が減少に転じたことが、国の発展の妨げになる」と言い直しています。

今までは顔馴染みの「同業種間の競争」でよかったのが、これからは予想もつかない、見たこともなかった敵が現れる「異業種間競争」に移っていきます。同業種間競争は、ひたすらその領域からはみ出してはいけぬ「抑制型」の価値観が支配的でした。これからは、どんどんはみ出していかなければならない「開放型」「拡張型」の価値観が変わっていきます。

これまでは会社の中の私、業界の中の我が社で、せいぜい半径300m位を見ているだけでよかったのが、範囲をもっと大きく取らなければいけぬ。世界の中の私、世界の中の我が社を意識し、半径数100kmで物事を考えなければならぬ。視角を変えなければならぬ。ライバルも増えてきます。今まで以上に、「個性」、「主体性」、「独立性」、「オリジナリティ」、「固有の強み」といったものを前面に立てていけぬと、生き残れません。これからは、「他とどれだけ異なり、魅力的なことをやるか」を競う時代です。「秀れている」ことよりも、異なる魅力の方に価値がある時代です。

今までは「〇〇らしくしなさい」「〇〇であらねばならぬ」と要求されたのが、これからは「〇〇ならぬ」が求められるようになります。今までは「滅私奉公」、これからは「自分を生かす」のが大事です。今までは変化を他人に依存していけば良かった「他者依存型」です。会社だのみ、国だのみ、会社が何もしてくれぬと言っていれば良かった。これからは、自分がしっかりしていなければなりません。「他人だのみ」の時代から「自分だのみ」の時代が変わっていきます。

情報の流れで言うと、上の命令を下へ一方的に伝達していく「上意下達型」から「双方向型」が変わっていきます。今までは「受信機能」だけを持っていればよかったのが、「発信機能」、語るべき何かを持っていないと生き残れません。自分の居場所をいかに築いていくかが、個人にもお店にも、企業にも、国にも問われる時代になってきました。



「沈黙」より「雄弁」が大事な時代が変わりつつあります。企業・組織の場合もそうです。忠誠心や特権ばかりに頼ってマネージメントをしていると、競争力のないメンバーしか残らなくなります。「3年で成果をあげて、笑いながらこの会社を去っていきます」と言うぐらいの生意気な社員の方が、むしろ本当は仕事をするかもしれません。

企業は個人の独自性や主体性を支援するべきです。そうやって輝いた個人が、逆に離れていけぬだけの魅力を、組織や企業が持たなければいけぬ。何にしても、もう少しハードルを低くして、個人の持つ可能性や潜在能力を発揮しやすい

国に変えていかなければいけぬ時にきています。

フリーダムフロムという言葉があります。何々から自由になるという意味ですが、何々をするための自由を得たとも言えます。日本では、さまざまな分野で規制の網がかかっていますが、自由こそ資源です。制度で守っていると、競争力を失い、衰退していきます。自由という資源を活用していかなければいけぬ時代に入りつつあります。

古い枠組みや価値観からみて、怪しげなものにこそ、むしろ可能性があるかもしれないというのがこれからの時代です。新しい発見は必ずそれまでの常識と対立するのは常で、むしろ、そういう異質、異端、よそ者、突出した人材を排除しようとする体質の方が危険です。そういうものを排除してしまうと視野が狭くなり、発想が独りよがりになるのが常です。

異質、異端、よそ者、突出した人材を排除するのではなくて、認めて共存していく。何にしても正解が一つとは限りません。今までは正解の道が見えていました。国や企業に与えられて、そこに至る道も見えていました。この線路さえ走っていけば特急だろうが、各駅停車だろうが、皆が皆、正解駅に着けると思っていました。これからはそうではありません。



行く先は自分で決めなければいけぬ時代が変わってきました。そこに至る道も自分で決めなければいけぬ。前例踏襲型・鉄道型モデルの時代から、前人未到型・ドライバー型モデルの時代が変わりつつあります。

大事なことは、ハンドルを人に預けぬ。判断の基準を人に預けぬ。人に預けるから恨みが残ります。俺はあれだけやったのに、君のためにこれだけ尽くしたのに。時代がどう、上司がどう、環境がどうは関係ない。だから私が何をやる。言葉の最初に必ず主語をたてなければいけぬ。

人が幸せになることは、その人が幸せになることであって、自分が不幸になるということでは決してない。比べるなら、昨日の自分と今日の自分、今日の自分と明日の自分、自己ベストを更新していくという精神を持てば、自分の賞味期限はいくらでも延ばすことができると思います。

今までは、百人が一律の生き方を強いられてきました。これからは百人が百様の生き方があっていい。大事なことは自分が死ぬときに、「ああ、面白かった」と言って死んでいけたら、価値のある人生が送れたということです。



自分の人生は全部自分が主役です。死ぬまで答えは判らないけれど、今日も明日もベストを尽くして生きていく。その他大勢の人生なんてない。嫌な人がいたら、ああ、主人公の私を目立たせるためにこんな悪意な人が登場したと思っただけいい。落ち込んだ時は、みんなの同情が、今、私に集まってくると思えばいい。自分の人生を、主役意識を持って、いかに生きるかがなにより大事です。いつまでも自分の賞味期限を保って、輝かしい人生を送られることを願います。

(まとめ 田中きょう)

ココロとカラダに効く

イマどきの 護身術

私の内なるパワーを呼び覚ませ!

子どもから大人まで女性への犯罪が多発しています。WEN-DO は最小限のチカラで犯罪や暴力から身を守るために開発されました。10歳以上の女性であればどなたでも。母娘の参加も大歓迎です。全2回。

講師 橋本明子さん (WEN-DO インストラクター)
日時 2007年2月3日(土)・17日(土)午前10時～12時
場所 エセナおおた 3階 多目的ホール
募集 2日間参加できる10歳以上の女性25人
参加費 無料
保育あり 1歳以上小学校低学年までの子ども15名。

保育料ひとり1回500円

申込 往復ハガキ、Fax、メール 1/25(木)必着

申込先 〒143-0016

大田区大森北 4-16-4 エセナおおた

E-mail: escena@escenaota.jp

Fax: 03-5764-0604

展示「ストップ! 女性への暴力」

1月4日(木)～2月4日(日)

エセナおおた 2階談話コーナー

- ・DVに関する資料
- ・相談機関などの情報
- ・高齢者虐待、介護とジェンダー

◆折り紙広場

毎月第3土曜日 13:30～16:30

参加費: 一回500円と材料費

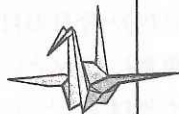
(小学生は材料費のみ)

◆女性に対する暴力ゼロをめざして

パープルリボン・プロジェクトにご協力を

あなたにできることは3つ ①リボンをつくる

②リボンを買う ③リボンを身につける



◇びよたまクラブ◇

☆親子で Be Happy! 対象: 親と乳幼児

毎月第2・第4木曜日 10:30～12:00

☆おもちゃであそぼ! 対象: 子どもから大人まで

毎月第4土曜日 13:30～16:00

☆おはなしの会 対象: 子どもから大人まで

毎週水曜日 15:30～



子育てサポーター養成講座



だれかの笑顔がみたいから



悩まない子育て、逃げない子育てを支え、笑顔の子育て、楽しむ子育てを応援する子育てサポーターの知識を学びます。現在活動中のサポーターからは、再就職の準備になると好評です。

対象 子育て支援に関心のある方

日時 2007年2月1日～3月8日までの毎木曜日

会場 エセナおおた 1階会議室

募集 25名(全6回通して参加できる方)

参加費 2,000円(全6回分)

申込 往復ハガキ、Fax、メール(護身術の項参照)

締切 1/18(木)必着

日程	内容
2月1日(木) 10:00～12:00	オリエンテーション ～子育て支援はおもしろい～ 白井里美(保育ネットワーク“Bear”)
2月8日(木) 10:00～12:00	とらわれない育児 ～子育てに必要なジェンダーの視点～ 加藤千恵(東京女学館)
2月15日(木) 10:00～12:00	子どもの心と身体の発達 ～“イヤ”は大切な自己主張～ 佐藤佳代子(宝仙保育専門学校)
2月22日(木) 10:00～12:00	子どもの心と身体の発達 ～子どもは自立したい～ 佐藤佳代子(宝仙保育専門学校)
3月1日(木) 10:00～12:00	子どもがわかるコミュニケーション ～聴く力と伝える力～ 岩井美代子(エンパワーYOU ネットワーク)
3月8日(木) 10:00～12:00	人との関わりの中で育つ(育児力) ～みんなちがってみんないい～ 白井里美(保育ネットワーク“Bear”)

講座終了後、大田区内の子育て支援活動(有償・無償)団体を紹介します。

◇エセナおおたトークサロン◇

☆わたし語りカフェ 大田区立糀谷文化センター

2007年1月6日(土) 13:30～15:30

どなたでもご参加ください。直接会場へ。

大田区立男女平等推進センター「エセナおおた」

〒143-0016 東京都大田区大森北 4-16-4

電話 03-3766-6587 03-3766-4586

FAX 03-5764-0604

e-mail escena@escenaota.jp

HP URL http://www.escenaota.jp/

メルマガ escenaotamail@yahoo.co.jp

指定管理者 NPO 法人 男女共同参画おおた

